

### 1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501065		
法人名	特定非営利活動法人 心		
事業所名	グループホーム こころ		
所在地	飯田市松尾上溝6301番地1		
自己評価作成日	平成24年6月25日	評価結果市町村受理日	平成 24 年 12 月 18 日

事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.k-kohyo.pref.nagano.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070600115&amp;SCD=320">http://www.k-kohyo.pref.nagano.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070600115&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	飯田市上郷別府3307番地5
訪問調査日	平成24年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅となんら変わりのない住まいの場として提供させていただき、その人らしさを引き出せる空間であつたり、生活歴(畳の部屋であったり、床の部屋であったり)を重視した生活の場所であるよう環境を整えたりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このグループホームは、「家族」の良さを目指しているグループホームである。グループホームを立ち上げる時、代表者は「新しい施設ではなく、ぜひ民家にしたい」と考え、改造してきたと言う。狭くて少々使い勝手が不自由であっても、利用者が心から安心でき、利用者同士、利用者と職員が触れ合うことのできる家族の空間を目指し、実現してきている。  
また、代表者や管理者は職員と同じ立場に立って働き、グループホームと一緒に作るようとしている。そして、職員も利用者と同じ立場に立って生活し、グループホームと一緒に作るようとしている。だから、家族同士の言葉遣いもするけれども、笑いが溢れ楽しさも多く、時には悲しきこともあるが、共に生きていこうとする家族である。

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。**

ユニット名(こころ)			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目: 28)		

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識しながら、定例会議などで共有し、又実践に向けてアイデアなどを出し合い、具体的なケアについて意思統一している。	新しく創った「共に笑い、共に楽しみ、共に悲しみ、共に生きる」という理念が職員の間浸透してきている。パンフレットを新しく作ることが計画されているので、地域へのつながりがさらに期待できる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントなどに積極的に参加し、また日常的に触れ合えるようにしている。	ボランティア(オカリナなど)の方に来ていただいたり、近所の方が野菜などを届けてくれたりしている。また、地域のお祭りやイベントなどに出かけるようにして、地域とのつながりを大切にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生・高校生・短大生などの受け入れを積極的に行い、支援方法など発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開き、利用者の方の身体状態等を報告したりし、また、各行事に参加していただき、ホームの特性・特徴を知ってもらい、その中から意見・アドバイスなどを出していただき取り入れている。	定期的に運営推進会議を開き、情報交換をしたり、グループホームの行事に参加していただいたりして、関係を密にしている。	事前の計画や資料を準備したり、話し合いの結果を整理して残したりすることにより、運営推進会議をさらに活かしていきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険について等、相談を行っている。また、運営推進会議にも地域包括職員に参加していただき連携を取っている。	市の担当者とは日頃から連絡を取ったり、運営推進会議に参加していただいたりしている。また、グループホーム連絡会でいろいろな情報交換をして連携を深めている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などを通じて、職員全員に理解をしてもらい、拘束のない介護を積極的に努めている。	職員が利用者一人ひとりの状況を把握、理解してその人らしい生活ができるように心がけている。例えば、オムツをしないという実践を通して、身体拘束や虐待、人間の尊厳について共通理解している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などを通じて、話し合いを持ったり、理解の浸透を図っている。		

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修会があれば積極的に参加していきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所以前のアセスメント作成時や、入所後も連絡を取りながら、将来、重度化やターミナルケア、緊急時等の医療連携体制について説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などには手紙や、訪問時気軽に話ができるような雰囲気作りに留意している。	普段から家族との関係づくりに努め、利用者や家族からの意見や要望を気軽に話せるようにしている。また、ころ通信を発行したり、手紙を渡したりして、家族との連携を密にしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などを通じて意見などを出し合い、改善しなければならない所はすぐ改善していく。	代表者や管理者は、常にグループホームを一緒に作りあげていくと言う態度で職員に接し、話し合っているため、職員にとっては話しやすい雰囲気である。意見や提案(ケアの問題や勤務の時間変更など)も活発に出ていると言う。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	キャリアパス導入など、自己研鑽ができるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた研修会に参加していただき、職員会議などで報告会を行い、職員の介護スキルの向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯伊圏域のグループホーム連絡会を通じて、他の事業所の職員との話し合いを持ったり、研修会をしたりし情報交換などを行っている。		

グループホーム ころこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談を多くし、本人から聞き取れない時は、家族・親族などから些細な事柄でも情報を集め、入所して不安が残らないように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談を繰り返し行い、家族の意見要望を聞いたりし、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望はもとより、家族の意見を聞き柔軟に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、喜びや悲しみなどを分かち合いながら関係作りに留意している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一家族として同じ思いで寄り添いながら支援を行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所や、病院を利用するなど生活習慣を尊重している。	利用者一人ひとりのかかりつけ医があり、家族の付き添いで受診している。また、お正月には実家に帰ったり、お盆には墓参りをしたりする支援を積極的に行なっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方同士が集まる事が多く、その中にも職員が入り、孤立せず円満にいくよう努めている。		

グループホーム こころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、相談・支援ができるようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意向などに耳を傾け、意思の疎通ができない方でも時間をかけ検討し、本人本位の生活が送れるようにしている。	利用者や家族との話し合いや聞き取りを大切にして、時間をかけアセスメントを行なっている。そして、その結果を職員全員が共有できるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人または家族などからの情報収集により把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が興味を示している事や、現在出来ることに注目し、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者からの意見をもとに、職員全員で情報を交換し、会議などで話し合い、その人にあった介護計画書を作成している。	職員がそれぞれの利用者を担当して、個人ファイルに記入したりしている。それらを基に職員全員が情報交換し、話し合い、担当者が中心になって利用者の現状に即した「個別サービス計画」を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルや日誌などを利用し、日々の様子を記録・記入し、介護計画書の見直しに活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要と判断されるものであれば、柔軟に対応してしたい。		

グループホーム こころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安全に地域で暮らせるよう、民生委員などと意見交換できる場を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望している医師の受診や往診を受けられるようにしている。受診・通院は家族か、もしくは家族の希望に添って職員が代行している。	利用者一人ひとりにかかりつけ医があり、家族付き添いや職員代行の受診を支援している。そして、職員が代行した時などは、対応の内容は記録し、家族に話ができるようにしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	パート看護職員を配置し、健康管理の支援または薬の管理などを行えるようにしている。また、日々の記録や申し送りなどを通じて、確実な連携がとれるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを極力防ぐために、医師と綿密な話し合いをし、事業所内での対応可能な段階で早期退院ができる様に話ができている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前より話し合いができており、また、急変時にも再度話し合いを持つなど、家族との意見交換ができています。また、その事について職員間でも共有でき、研修会にも参加している。	家族と職員との間に、重度化や終末期についての思いにズレがないように入所時に話し合い、急変時には話し合いが十分できるようにしている。一緒に生活してきた家族として他の利用者・全職員も対応できるよう努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議などを通じて、急変時・事故発生時の初期対応の仕方などの練習をしている。また、消防署における蘇生法や止血法などの訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	連絡網を活用しての訓練や、緊急通報装置を使用したり、地元消防団との協力の下、避難訓練などを行っている。	年一回行う大規模な避難訓練では、地元消防団の協力を得て、足腰の不自由な利用者を布団で運んだりする本格的な訓練を実施し、職員も緊急時には実際に対応できるように心がけている。	

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライバシーを損ねるような声かけをしないよう日々留意している。	言葉遣いは丁寧ではないが、利用者・職員が家族の一員として、相手を思いやり、尊重する気持ちや態度で話をしている。それに対して、利用者も率直に反応し、対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を尊重し、本人が食べたいもの、着たいものなど決定出来るように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制することなく、本人の意思を尊重して、日々その人らしく生活ができるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々着る服などを自分で選んでいただいたり、個別で必要とされる方は美容室の利用ができるようにしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に作った野菜と一緒に収穫し、それを調理するなど食事を一日の大切な活動としている。	訪問時の献立は、パン、お吸い物、煮物、酢の物であった。利用者は調理の様子を見たり、味見をしたりして楽しそうに食事を待っていた。ペーストや刻み食の利用者もいて、マイペースで食事を摂っていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態によって、キザミ食、ペースト食などにし食事を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて口腔ケアを支援している。自立されている方には声かけを行っている。		

グループホーム ころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつの使用はしておらず、下着の着用とパットを使用している。また、個々の排泄時間に合わせて誘導を行っている。	利用者一人ひとりのペースに合わせて、職員が声かけして、誘導していた。民家を改造したグループホームであるため、トイレのスペースは広くはないが、利用者がすぐ寄りかかることができるので安全であると言う。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクターの指示による服薬でコントロールを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	強制をすることなく、週三回を目安に入りたいときに入れるよう支援している。	午後3時頃から入浴タイムとなっており、利用者本人の意向や状態に合わせて入浴を進めている。入浴をいやがる利用者には入浴方法などを考え、対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人にあつた時間や場所で休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別で服用している薬のリストを作り、職員が閲覧できるようにしており、全員が理解を深めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の力量に合わせ、声かけしながら楽しめるよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の要望があればその都度外出の支援をしている。また、花見、果物狩り、外食、公園での焼き肉など季節に合わせた外出も行っている。	この頃は重度化が進み、外出することが少なくなった利用者と、近くで借りている畑の草取りを一緒にした。このように利用者一人ひとりに合った外出支援をしたり、利用者や家族、職員を交えた外出を行い、楽しんでいる。	

グループホーム こころ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持し、買物ができるように支援を行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族などに電話をかけたい方がいれば、その都度電話ができるように支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花などを飾ったり、中庭に花を植えたりして楽しんでいる。また、畑で野菜を栽培したりしている。</p>	<p>共用空間はあまり広くはないけれど、気のついた利用者や職員が花を飾ったり、廊下のソファに自由に腰掛けたり、畳の上に寝転がったりするような我が家である。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う利用者同士が話ができるように、廊下などにソファを置いたりして支援をしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>生活歴を尊重し、畳の部屋であったり、ベッドであったり個々に合わせて空間を作っている。また、馴染みのタンス、位牌であったり自宅と変わらないようにしている。</p>	<p>利用者それぞれが、自分の好みに合った部屋を作っている。畳の部屋であったり、床の部屋であったりして、仏様や神様を拝んだりできるスペースもある。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、トイレは手すりを設置し安全に気を配っている。また、本人のレベルを維持していくため、歩行器など個人の状況に合わせて取り入れている。</p>		